

福井県嶺南地域流域検討会【第26回】 議事概要

日時：平成27年3月20日 14:00～
場所：小浜土木事務所 大会議室



★委員からの主な意見

1. 嶺南西部地域の河川整備計画の進捗状況点検（資料1）

点検票 No.1 多田川、No.2 森川について（点検票 p1～4 ページ）

・コンクリート護岸の作り方では、人が川に近づきにくく、川と人との関係が疎遠化するという懸念がある。単なる水路としてではない護岸の作り方を配慮する必要がある。
→今のやり方が十分であるとは考えていない。今後は親水性や環境面も考慮し整備していく。

・みお筋を復元するために、水制工を行うとか配慮が必要である。現状の河川環境の復元に努めるという整備計画の環境面の目標が達成できないのではないか。
→今回の意見を踏まえて、今後検討していく。

点検票 No.3 河内川ダム（点検票 p5～8 ページ）

・水質のシミュレーションはしているのか？
→実施している。シミュレーションの結果を踏まえ、影響がないと判断している。

点検票 No.4 江古川（点検票 p9～10 ページ）

・河内川ダムができることによって北川の水位が低下するという認識で良いか？
→はい。河内川ダムの建設と併せて、国交省の北川の河床掘削により水位が低下する。

・北川の河口部は土砂がたまってきており、北川下流の河川掘削を行っても、また、たまってしまふことから計画通り江古川の水位が低下しないのではないか？

→河口部では一般的に土砂が堆積する傾向である。しかし、堆積した土砂が洪水時にフラッシュされることも考えられる。

点検票 No.6 大津呂ダム (点検票 p 13～15 ページ)

・大津呂ダムを建設するに当たって、下流側の佐分利川水系周辺の地下水位の影響はなかったか？

→地下水位の観測の結果、影響はなかった。

堆砂量はどれくらいの頻度を想定しているのか？

→100 年間分の堆砂量を想定している。

水質のシミュレーションはしているのか？測定はしているのか？

→一部水質シミュレーションは行っており、シミュレーションの結果を踏まえ、影響がないと判断している。水質は、pH、SS、Do、COD、ダイオキシン等の測定をおこなっている。現在水質で悪化は確認されていない。

水温などは測定しているのか？

→ダムの貯水池の水温は測定している。

点検表 No.8 河道の維持管理 (点検票 p 17～18 ページ)

・ウッドチップ等の有効活用も検討すると良い。

点検表 No.10 水量の管理 (点検票 p22 ページ)

・取水堰から取水しやすくするために魚道にまで板を付けている箇所があり、魚道として機能しないだけでなく、下流の維持流量にも影響あるのではないか。利水者に対して適切に管理するよう指導して欲しい。

→許可書を確認する。

点検票 No.12 許可工作物の設置等への対応 (点検票 p 25 ページ)

・実情を見ると、不具合が生じている許可工作物に対して改善処置が見られない。占有者に対して魚道の設置を促すなどの指導を行っているのか？

→基本的には、破損等に対して占有者に原形復旧を指導していくという考えである。魚道に関しては、工作物の許可時に魚道の設置を条件にしている訳ではない。設置時に必要と認められる時に占有者に設置をしてくださいという指導をしている。

- ・河川に横断する許可工作物すべてに魚道を設置するとコストがかかると思うので、魚道整備の先進県である山口県や岐阜県の事例を参考に、生態系に配慮した河川整備を検討して欲しい。

→参考にする。

2.スケジュールの変更（資料2）

- ・スケジュールの変更について、異議なし。